

# 3月4日 「世界のダンス・フードフェスティバル」 白井在住外国人ら招き開催

## 白井国際交流協会

白井国際交流協会は3月4日(日)、白井駅前センター・レクホールで「世界のダンス・フードフェスティバル」を開催する。中東米、欧州、豪州、アジア、日本などの手作りクッキーやスナックを味わいながら、ダンス、南中ソラン、フラメンコ、フォルクローレ、サルサを外国人と一緒に楽しむ。アマチュアグループの合唱・演奏もある。時間は午後1時から4時まで。入場無料。

# 「公正純治」の提案箱

次の市議会議員選挙が目前に迫った今、4年前の公約がどれだけ実現したのか、あるいは実現しなかったのか、皆さんにご報告する義務があるでしょう。以下は私の正直な自己評価です。

「私たちが市民が、白井の未来を決める」「市町村合併」は市民が決める！私と意を同じくする議員で「住民投票条例」を可決、住民投票が実施されました。その結果、有効投票の7割もの市民が合併に「ノー！」を選択しました。法定合併協議会が進行する中、あまりにも少ない情報、ビジョンが全く見えてこない合併協議会に、市民の多くが不安を抱いたというわけです。ところがまた、県は前回と同じく2市2村での合併構想案を発表しました。ここで大事なのは、白井は本当に市単独で運営できるかということですね。京葉地区7市での広域行政に関する調査研究



# 私の「公約」は実現されたのか、それとも...

## これが4年間の自己評価です

財政が逼迫している今、経費削減のために地元NPO育成で真の市民協働を実現したいものです。

「まちづくり協議会」を各地域に「暖かみのある地域社会をつくる」ことが、人間関係の希薄なニュータウンにとっては重要な課題です。が、実現には至っていません。市では、小学校区単位での市民自治推進事業を今年度当初予算に盛り込んで着手しようとしています。が、私も全面的に後押しします。

【北総線の「値下げ」こそ 白井繁栄の鍵】  
通学定期の割引率を引き上げ、沿線自治体の助成ということで実現しましたが、本来は北総鉄道がすべきものであります。

成田新高速鉄道への支援：今後2010年の開通が遅れることのないよう、関係各部門に働きかけます。

京成と同一運賃に：問題は開通時に京成と同一運賃にできるかどうかです。運賃値下げには強い意志をもちます。

「地産地消」を推進する：4月には国道16号線沿いに農産物直売所が開設されます。この事業が成功すると、「地産地消」の推進に役立つと期待しています。

グリーン・ツーリズムの発信地：都市に居住している人たちに田舎暮らしを体験してもらおうがグリーン・ツーリズム。私は一般質問でも取り上げましたが、都会の人たちを白井に呼び込むことで、税の増収と遊休農地の活用にもつながると提案しました。今期基本計画の中にグリーン・ツーリズムという言葉が入ったことは一歩前進です。行政の取り組みとして、税金を有効に使う行政改革の第一歩、議員定数の大幅削減へ...

交流協会では、白井地域に在住、在勤の外国人の参加を呼びかけている。

豪高校生のホストファミリーも募集

交流協会はまた、豪シドニー高校生野球チームのホストファミリーも募集中だ。日程は4月6日(金)～4月8日(日)

午前中までの2泊。選手は20名(16、19歳で、地の高校野球や少年野球チームと交流することになっている。

いずれの申込・問い合わせも白井国際交流協会事務局(電話0477-445334、FAX0477-446096)へ。

皆さんも「存じの」とおり、議員定数・報酬・職務調査費・費用弁償の4項目を協議する「議会改革特別委員会」が設置され、私も委員の1人として1年間協議しました。私は、議員定数は18議席を主張しましたが、委員会の中では費用弁償は廃止され、削減数が出ただけで、削減数までの意見一致に至りませんでした。

削減派議員だけで協議した場で18議席を主張した議員が10名もいたにもかかわらず、一致を見ないので2議席を譲り、20議席での意見集約をしました。それが、それでもダメ。このままでは定数削減が削減してしまふ。そこで21議席案に賛成する英断を下しました。3議席減りました。公約の大幅削減とはいきませんでした。削減に更なる削減に向けて全力を尽くします。

「使い切り予算」は廃止：一般質問に取り上げましたが、「使い切り予算」の廃止に関しては必要のない予算は補正予算で減額し、効率的な予算執行に努めるという回答でした。

定年退職者を市職員に再雇用し人件費削減を...これも一般質問で提起しました。定年退職者の雇用に関しては、一般事務での常勤は地方公務員法上の制約があるもので、非常勤という形で専門的知識を活かした人材の活用を図っていききたいという回答でした。人件費削減のため、これから多様な提案をしていきます。

【老後に必要な「生き甲斐」「安心」「いやし」】心を癒せるペットと暮らせたら、「ペットとの共生」への提案は、一般質問で計3回取り上げました。動物愛護法改正を受けて、動物愛護先進自治体としてガイドラインの設置要望、また野良猫の問題解決策として「地域猫」への取り組みも提案しました。動物愛護推進委員制度も施行され、念願の「ペットとの共生」が動き出したとこです。

1人暮らしのお年寄りをサポート：これに関して、市に対して良い提案ができませんでしたが、わが白井市では、これから高齢化が進みますので、さらに研究を重ねていきます。

生涯教育充実で生き甲斐を：生涯教育に関しては、市民大学校を開設するなど、市の取り組みを評価してもいいでしょう。私は一般質問の中で、「認知症予防教室」の設置を要望しました。現在、市内NPOの「ボランテニア連絡協議会」が教室を開催しています。

# 博人館



石橋伸彦さん  
特別養護老人ホーム「菊華園」の事務

梨畑と野菜畑に囲まれた閑静な地に、開設10年の特別養護老人ホーム「菊華園」が建つ。3階建ての瀟洒な建物の中には、ショートステイ(短期滞在)サービスを含めて100床の老人ホーム施設、25室のケアハウス、在宅介護支援センターなどがある。パート職員も含めると160名を超えるスタッフを擁する施設だ。

全国平均を上回るスピードで高齢化が進行している白井市で唯一の老人ホームでもある。当然、入所希望者が多い。が、ここでも人手不足は深刻で、今以上にベッド数を増やすのは難しい。

365日、24時間体制の施設とあって、猫の手

# 白井唯一の特別養護老人ホーム「高齢化」で多忙な日々

## 祖父は白井で最初に病院を建てた

設の打診があったとき、自家の農地を建設地にすることに迷いは無かったのか。

初めて白井村(当時)に病院を建てたのは、石橋源四郎という人物だ。農地解放では自ら先頭に立ち、地域をまとめた、村長も務めた。そう、石橋さんの祖父である。父親の忠夫氏(菊華園理事長)から「親父が初めての病院、偉が初めての老人ホームだったのも縁だ」と励まされたことも、老人ホーム建設に踏み切った理由の1つだという。

建設当初の目の廻るような忙しさは、30代前半の若さと馬力で乗り切った。長くきつい仕事に拘らず、10年も共に頑張ってきた

も借りた現状だが、これを圧迫しているのが膨大な量の事務処理だ。介護保険制度の導入以後、「記録、記録」と要求され、会議も増えた。「スタッフは、入居者と触れ合う時間を削りたくないから、結局、勤務時間を大幅に超えて働くことになっちゃう」と開設時から施設長を務める石橋伸彦さん(43)が嘆く。

石橋さんは、白井生まれの白井育ち。中学生の頃、北総線の工事で削られた土砂が沿線に山積みされたという光景を見た。経営者としての責任感から、地元の白井のスポーツ用品店に勤務し、10年余り営業マンとして過ごす。市内の学校回りも日

# 人と関わる仕事が好き！

課だった。その間に出会った人々や子供たちとの触れ合いが貴重な経験になった。

「今思えば、いい経験をさせてもらいました。たとえはね、中学3年生でも自分の靴のサイズを言えない子が1人や2人じゃないんですよ。」

「えっ！」と驚くような話は、それこそ学校にいたまがけない。「だから人と関わる仕事が好きなんです。楽しいんですよ。」と屈託なく笑う。平成6年に特別養護老人ホーム建